

## 平成 21 年度事業報告書

(平成 21 年 3 月 1 日～平成 22 年 2 月 28 日)

### 会員の移動状況書

会員種別	員 数		増減数	摘要
	本年度末 平成 22 年 2 月 28 日 現 在	昨年度末 平成 21 年 2 月 28 日 現 在		
名誉会員	55	56	-1	
永年会員	261	255	6	
正 会 員	4772	5014	-242	
学生会員	983	841	142	
維持会員	244	252.5	-8.5	
特別会員	636	672	-36	
公益会員	457	467	-10	
計	7408	7557.5	-149.5	

#### ① 第 50 回通常総会 (定款第 31 条)

日時 平成 21 年 4 月 17 日  
場所 ゆうぽうと五反田 会議室「菖蒲」参加者数 205 名

#### ② 会誌, 研究報告及び資料の刊行 (定款第 5 条(1))

- 学会誌「ぶんせき」を下記のとおり発行した。
 

発行年月日	巻 号	発行部数
自 平成 21 年 3 月 5 日	2009 3	7700
至 平成 22 年 2 月 5 日	2010 2	7700
- 和文論文誌「分析化学」を下記のとおり発行した。
 

発行年月日	巻 号	発行部数
自 平成 21 年 3 月 5 日	58 3	2600
至 平成 22 年 2 月 5 日	59 2	2600
- 英文論文誌「Analytical Sciences」を下記のとおり発行した。
 

発行年月日	巻 号	発行部数
自 平成 21 年 3 月 10 日	25 3	950
至 平成 22 年 2 月 10 日	26 2	950
- 英文論文誌「X-ray Structure Analysis Online」を下記のとおり発行した (web のみによる無料公開)。
 

発行年月日	巻 号
自 平成 21 年 3 月 10 日	25 3
至 平成 22 年 2 月 10 日	26 2
- メールマガジンを毎月 1 回発行した (配信数 4000)。
- 「改訂 6 版分析化学便覧」の編集作業を行った。
- 「試料分析」シリーズの編集作業を行った。
- 教育用 DVD 並びにビデオシリーズの頒布を行った。

#### ③ 講演会, 講習会及び研究会の開催 (定款第 5 条(2))

- [研究発表会]
- 第 70 回分析化学討論会  
日時 平成 21 年 5 月 16 日～平成 21 年 5 月 17 日  
場所 和歌山大学 参加者数 786 名
  - 東京コンファレンス 2009  
日時 平成 21 年 9 月 2 日～平成 21 年 9 月 4 日  
場所 幕張メッセ国際会議場 参加者数 840 名
  - 第 58 年会  
日時 平成 21 年 9 月 24 日～平成 21 年 9 月 26 日  
場所 北海道大学 参加者数 1325 名

- Separation Sciences 2009  
日時 平成 21 年 10 月 22 日～平成 21 年 10 月 23 日  
場所 東海大学 参加者数 76 名
- [講習会]
- 第 21 回分析化学基礎セミナー  
日時 平成 21 年 6 月 11 日～平成 21 年 6 月 12 日  
場所 東京都市大学 参加者数 73 名
  - 分析信頼性実務者レベル講習会「第 11 回金属分析技術セミナー」  
日時 平成 21 年 7 月 2 日～平成 21 年 7 月 3 日  
場所 こまばエミナース 参加者数 33 名
  - 第 4 回「分析化学における不確かさ研修プログラム」  
日時 平成 21 年 12 月 3 日～平成 21 年 12 月 4 日  
場所 日本電気計器検定所本社 参加者数 24 名
  - 分析信頼性実務者レベル講習会「第 7 回土壌分析技術セミナー」  
日時 平成 21 年 7 月 16 日～平成 21 年 7 月 17 日  
場所 弘済会館 参加者数 30 名
  - 分析信頼性実務者レベル講習会「第 10 回ダイオキシン類分析技術セミナー」  
日時 平成 21 年 10 月 29 日～平成 21 年 10 月 30 日  
場所 こまばエミナース 参加者数 33 名
  - 第 22 回分析化学基礎セミナー  
日時 平成 21 年 11 月 5 日  
場所 (株)島津製作所東京支社 参加者数 46 名
  - 分析信頼性実務者レベル講習会「第 13 回水中の微量金属分析」  
日時 平成 21 年 10 月 16 日, 平成 22 年 1 月 22 日  
場所 学術総合センター 参加者数 23 名
  - 分析信頼性実務者レベル講習会「第 8 回セラミックス原料・鉱石類分析技術セミナー」  
日時 平成 21 年 10 月 22 日～平成 21 年 10 月 23 日  
場所 日本分析化学会 参加者数 22 名
  - 分析信頼性実務者レベル講習会「第 6 回プラスチック中有害金属成分の化学分析技術セミナー (有害物質規制/RoHS 指令対応)」  
日時 平成 21 年 11 月 5 日～平成 21 年 11 月 6 日  
場所 明治大学駿河台キャンパス 参加者数 28 名
  - 第 23 回分析化学基礎セミナー  
日時 平成 22 年 2 月 9 日  
場所 オルガノ(株) 参加者数 51 名
- #### ④ 調査, 研究及び建議 (定款第 5 条(3))
- [JIS]
- 日本規格協会の委託に基づき,  
JIS K0108「排ガス中の硫化水素分析方法」規格原案作成委員会  
JIS K0050「化学分析方法通則」改正原案作成委員会  
を各々組織して制定のための建議を行った。
- [技能試験]
- 事業所を対象とした技能試験を次のとおり実施し, 結果に基づく「技能試験成果報告書」並びに「分析化学」誌上の論文を公刊した。
  - ISO/IEC ガイド 43-1 に基づく技能試験「第 3 回トレーサビリティと不確かさ理解のための分析技能試験」 参加事業所数 58  
日時 平成 21 年 3 月 31 日～
  - ISO/IEC ガイド 43-1 に基づく技能試験「第 11 回ダイオキシン類分析 (ばいじん)」 参加事業所数 90  
日時 平成 21 年 7 月 10 日～
  - ISO/IEC ガイド 43-1 に基づく技能試験「第 6 回食品成分の分析」 参加事業所数 57  
日時 平成 21 年 10 月 2 日～
  - ISO/IEC ガイド 43-1 に基づく技能試験「第 6 回プラスチック中有害金属成分の分析 (有害物質規制/RoHS 指令対応)」  
日時 平成 21 年 11 月 5 日～
  - 土壌分析技能試験 (日本環境測定分析協会との共同主催)  
日時 平成 21 年 6 月 16 日～ 参加事業所数 420

[標準物質]

これまで開発してきた各種標準物質の保管、管理並びに社会への供給活動を継続して実施した。

[関係団体との協力]

- 関連学術団体等が主催する研究会等に次のとおり協力した。
  - 国際会議：3月10日 Japan Symposium (共催) ほか4件
  - 展示会：9月2日 2009分析展(後援) ほか4件
  - 討論会並びに講習会等：6月3日 プラズマ分光分析研究会第76回講演会(協賛) ほか124件
- 次の諸団体に参画し、種々の調査、建議に協力した。
  - 日本学術会議
  - 日本化学連合
  - 化学関係学協会連合協議会
  - JABEE/化学分野 JABEE 委員会
  - 化学情報協会
  - 勸化学技術戦略推進機構
  - グリーンサステイナブルケミストリーネットワーク
  - 日本工学会
  - 標準物質協議会
  - ASIANALYSIS 国際諮問委員会
- 次の団体に委員を派遣して各種規格の立案等に協力した。
  - (勸)日本規格協会
  - (社)日本化学工業協会
  - (独)産総研計量標準管理センター
  - (社)日本鉄鋼連盟
  - (社)日本試薬協会
  - (社)日本セラミックス協会
  - (社)日本環境測定分析協会
  - (勸)日本適合性認定協会
  - (社)日本分析機器工業会

⑤ 研究の奨励及び研究業績の表彰 (定款第5条(4))

- 2009年度学会賞を次のとおり授与した。
  - 荒川 隆一君「溶存化学種分析のためのソフトイオン化質量分析法の開発」
  - 北森 武彦君「マイクロ・ナノ化学チップの創成と分析化学への展開」
  - 萩中 淳君「医薬品分析のための液体クロマトグラフィ用高機能充填剤の開発と応用」
- 2009年度学会功労賞を次のとおり授与した。
  - 大関 邦夫君「固相抽出に基づく高感度定量法の開発と学会への貢献」
  - 片岡 正光君「イオンセンサーの開発と応用及び学会・化学教育への貢献」
  - 善木 道雄君「高感度有機試薬の流れ分析法への応用と学会への貢献」
  - 田端 正明君「ポルフィリンを用いる超微量化学分析法の研究と学会への貢献」
  - 千熊 正彦君「三官能性試薬による超微量分析法の開発と分析化学教育及び学会への貢献」
- 2009年度技術功績賞を次のとおり授与した。
  - 千葉 光一君「標準物質におけるトレーサビリティの普及推進と国際化対応活動に対する貢献」
  - 藤本 京子君「金属材料中微量元素分析の高感度化・高精度化に関する研究」
  - 吉田 善行君「アクチノイドの高性能分離法・分析法の開発及びその原子力への応用」
- 2009年度奨励賞を次のとおり授与した。
  - 青木 寛君「電気化学的遺伝子検出法と迅速遺伝子診断技術の開発」
  - 加地 範匡君「精密制御したナノ空間における単一DNAの顕微計測」
  - 諏訪 雅頼君「磁気泳動速度解析による単一微粒子の磁化率測定法の開発」
  - 宗 伸明君「細胞機能解析を指向した小分子蛍光プローブ群の創製と応用」
  - 中西 淳君「タンパク質構造変化の生細胞内可視化および細胞の光パターンニング」

- 2009年度先端分析技術賞を次のとおり授与した。

JAIMA 機器開発賞

鈴木祥夫氏・藤川敬浩氏・中野信夫氏・寺内靖裕氏・鈴木孝治氏 「ホルムアルデヒド選択応答試薬の創製とシックハウスガスセンサーの実用化」  
山口健太郎氏及び開発チーム  
「コールドスプレーイオン化質量分析法の開発」

CERI 評価技術賞

森 勝伸氏「イオン排除型イオンクロマトグラフィーによる光触媒環境材料の性能評価試験法の確立」

- 2009年度有功賞を次のとおり授与した(敬称略)。

渡辺 光義	亀山 雅和	大宮 孝	中川 正男
根本 利雄	高木 秀三	渡部 敏雄	今橋 栄
古木 文康	石原 昭雄	大和 純男	南沢 徹
下村 次明	筆保 喜弘	富川 公二	赤津 啓次
谷村 忠男	水野 重之	天野 晃彦	佐藤 友良
阿南 敏行	山内 裕	佐伯 正人	松井 望
南川 郁生	伊藤 勇司	渡辺 三夫	永山 光雄
安島 良平	古野 和夫	安田 勉	菅野 照夫
鈴木 義一	浅川 昇	柿本 隆	筒井 周治
佐藤 達夫	伊東 佐	西野 章夫	有馬 信二
西村 暁子	鎌田 孝一	伊藤 彰男	堀口 大吉

- 2008年「分析化学」論文賞を次のとおり授与した。

論文題名『放射光軟X線と光電子顕微鏡を組み合わせたナノメートルスケールの化学結合状態マッピング』

著者名：平尾法恵・馬場祐治・関口哲弘・下山 巖・本田 充紀(日本原子力研究開発機構)

掲載ページ：「分析化学」第57巻第1号, 41~47ページ

- 他機関による表彰及び研究助成に対して、会員を候補者として推薦した。

⑥ その他前条の目的を達成するために必要な事業 (定款第5条(5))

[広報]

本会の活動を記者会見、展示、小冊子の発行ならびにホームページを通して広報した。

[若手交流会]

分析化学討論会および年会の若手企画を後援した。また討論会後に定例の若手交流会総会を開催した。

The 13th Asianalysis において、Asia Young Analytical Chemist Sessions 2009 (AYACS 2009)を企画・運営した。

[ICAS 組織委員会]

国際及び国内諮問委員会委員を決定した。実行委員会において、①シンポジウムのテーマ策定並びに世話人の決定、招待講演候補者の選定、プログラム案の検討(プログラム部会)、②予算案及び募金計画の作成(財務・募金部会)、③案内チラシ及び1st Circularの作成、ホームページ(<http://www.icas2011.com>)の作成・公開(広報部会)等、開催の準備を行った。第2回組織委員会/第1回国内諮問委員会合同会議(9月24日、北海道大学)、第3回実行委員会(2月6日、京都大学)を開催した。

[AACN]

Asian Analytical Chemistry Network (AACN)の創設をASIANALYSIS Xの国際諮問委員会(於クアラルンプール)において提案し、第58年会において第1回AACNシンポジウムを実現した。またそのホームページを開設するとともに運用を行った。

[研究懇談会]

研究懇談会活動を次のように行った。

1) 有機微量分析研究懇談会

委員会を2回。第76回有機微量分析研究懇談会シンポジウムを6月4日、5日、さいたま市大宮ソニックシティ(大宮)で開催。(計測自動制御学会・力学量計測部会と共催、日本分析化学会関東支部、日本化学会、日本薬学会協賛)で、特別講演2件、話題提供講演2件、口頭発表8件、ポスター発表17件、その他各委員会報

告および技術研修会等を行った。講演会(第58年会9月24日、北海道大学高等教育機能開発総合センター、招待講演1件)を開催したほか、会報11号を発行した。

- 2) ガスクロマトグラフィー研究懇談会  
開催数:8回(第296~303回,300回記念特別講演会,東京コンファレンス講習会,見学会,日中韓シンポジウム, Separation Sciences 2009を含む)。又,第15回キャピラリーガスクロマトグラフィー講習会(7月29~31日,首都大学東京)を開催した。
- 3) 高分子分析研究懇談会  
開催数:5回(第347~351回)。又,第38回・第39回高分子分析技術講習会(工学院大学新宿校舎),第13回高分子分析討論会(11月4~5日,工学院大学新宿校舎)で開催した。
- 4) X線分析研究懇談会  
開催数:例会4回(第230~233回)。又,「X線分析の進歩」第40集をアグネ技術センターより出版したほか,第16回X線分析講習会(7月13~7月15日,東京理科大学), Denver X-Ray Conference Workshop(7月27~7月30日),第45回X線分析討論会(11月5~6日,大阪市立大学)を共催あるいは主催した。
- 5) 分析試薬研究懇談会(旧有機試薬研究懇談会)  
開催数:1回。第58年会において,分析試薬研究懇談会(9月24日,北海道大学,講演2件)を開催した。また,講演会1回(上智大学),および2010環太平洋国際化学会議(米国ハワイ)でのシンポジウム企画を行った。
- 6) 溶液界面研究懇談会  
開催数:1回。北海道大学で開催された第58年会の「界面・微粒子」セッションの中で,2件の講演(9月24日)を行った。また,分析化学会年会における界面に関するセッションの維持を図った。
- 7) 液体クロマトグラフィー研究懇談会  
開催数:9回(第219~227回)。特別講演会見学会2回。又, Separation Sciences 2009,第15回LCテクノロジー(1月28~29日,東京理科大学), LC-DAYS 2009(11月26~27日,シーバル須磨)を開催した。
- 8) 化学センサー研究懇談会  
研究懇談会講演会(9月24日,日本分析化学会第58年会,北海道大学にて講演2件)を開催した。また, Pacificchem2010での講演企画会議を2回行った。
- 9) 電気泳動分析研究懇談会  
研究懇談会講演会(9月24日,日本分析化学会第58年会「北海道大学」にて講演1件)および第29回キャピラリー電気泳動シンポジウム(11月17~19日,近畿大学薬学部・東大阪キャンパス)を開催した。
- 10) イオンクロマトグラフィー研究懇談会  
第3回日中韓合同イオンクロマトグラフィー討論会(6月,韓国・済州島),イオンクロマトグラフィー講演会(9月,分析化学会第58年会と共催,北海道大学),中日韓分析化学シンポジウム(9月,GC,HPLC,FIA各研究懇談会と共催,幕張),2009年度イオンクロマトグラフィー討論会(12月,群馬県・伊香保温泉)を開催した。この他に運営委員(ICの単行本の編集委員会を含む)を計4回開催した。また「分析化学教育用ビデオ」の内容改訂(DVD化)を進めるとともに,ICの単行本「役にたつイオンクロマト分析」を編著し,11月に発刊した。
- 11) フローインジェクション分析研究懇談会  
委員会を2回(5月15日,和歌山,11月27日,大阪),講演会を5回(2009日中韓シンポジウム(9月1日・2日,幕張メッセ), Flow Analysis XII(9月14日~18日,スペイン),年会開催時(9月24日,北大), Separation Sciences 2009(10月22日・23日,東海大),第48回フローインジェクション分析講演会(11月27日,府立大))を開催したほか, Journal of Flow Injection Analysis 誌の発行(26巻1・2号)のための編集委員会を2回(5月15日,和歌山,11月26日,大阪),また褒賞委員会を1回(9月24日,北大)開催した。
- 12) 環境分析研究懇談会  
講演会を2回(第14回を6月19日群馬大学工学部にお

いて,第15回を9月24日第58年会において開催),運営委員会を1回開催した。メーリングリストにおいて関連情報を会員各位に適宜提供した。また,2009CJK Symposium on Environmental Analytical Chemistry(幕張)(9月1,2日)の日本側懇談会メンバーに参加した。さらに,「分析化学」誌に「環境分析の今日」と題した特集号を企画した(2009年3号)。

- 13) 表示・起源分析技術研究懇談会  
講演会を2回(7月16日東京工業大学,11月17日農林ホール)を開催した。9月24日第58年会にて講演会を開催した。運営委員会を2回開催した。

【支部】

支部活動を次のように行った。

#### 【北海道支部】

##### 1. 役員を選任

支 部 長	嶋津 克明				
副支部長	伊藤 八十男	(次期支部長)	大澤 雅俊		
参 与	菖蒲 明己	伊藤 秀明	大下 敏夫		
	尾谷 賢	植村 彰彦	鍵政 秀一	黒田 一寛	
	佐々木陽一	多賀 光彦	藤間 貞彦	富田 勤	
	長井 忠則	中野 益男	那須 淑子	西口 信弘	
	西野 淳二	長谷部 清	松久 喜一	松永 勝彦	
	横澤 龍朗	吉田 仁志			
監 査	神 和夫	齋藤 健			
庶務幹事	中田 耕	伊藤 慎二			
会計幹事	山田 幸司	蔵崎 正明			
幹 事	池田 俊朗	石坂 昌司	石田 晃彦		
	板橋 豊	伊藤 純一	宇都 正幸	奥山 祐治	
	小澤 幸男	蠣崎 悌司	片岡 正光	片山 則昭	
	加藤 昌子	上館 民夫	河崎 孝男	菅 正彦	
	喜多村 昇	工藤 英博	久万 健志	黒澤 隆夫	
	國仙 久雄	坂入 正敏	佐々木胤則	佐藤 正知	
	佐藤千鶴子	高木 英利	高橋 徹	高橋 英明	
	田中 俊逸	田邊 博義	谷 博文	田原るり子	
	千葉 真弘	坪井 泰之	豊田 和弘	永洞真一郎	
	中村 博	西村 一彦	乗木新一郎	古月 文志	
	福嶋 正巳	藤井 清志	藤吉 亮子	古崎 睦	
	三浦 敏明	南 尚嗣	諸角 達也	森田みゆき	
	吉田 登	吉村 昭毅			

##### 2. 研究発表会

- 1) 夏季研究発表会(共催):7月11日,苫小牧工業高等専門学校で開催,一般講演117件,特別講演2件,懇親会を行った(参加者206名)。
- 2) 化学教育研究協議会(共催):11月7日,北海道大学理学研究院で開催,講演1件,分析化学若手教育研究者による話題提供,自由討論,懇親会を行った(参加者54名)。
- 3) 冬季研究発表会(共催):1月26・27日,北海道大学学術交流会館で開催,研究発表159件,特別講演1件,懇親会を行った(参加者380名)。

##### 3. セミナー

- 1) 第25回分析化学緑陰セミナー:7月4・5日,北海道立青年の家・ゆ〜すくろ音江(深川市)にて開催,講演4件,ポスター講演8件,懇親会を行った(参加者73名)。
- 2) 特別公開シンポジウム(公開セミナー):9月26日,北海道大学クラーク会館で開催,講演4件,研究開発によって得た製品のブース展示,パイプオルガン演奏を行った(参加者40名)。
- 3) 第45回氷雪セミナー:1月9・10日,かんばんの宿小樽で開催,講演5件,懇親会を行った(参加者37名)。

#### 【東北支部】

##### 1. 役員を選任

支 部 長	安齊 順一				
次期支部長	尾形 健明				
副支部長	糠塚いそし	福島美智子			
参 与	秋葉 健一	阿部 重喜	石井 一		
	石田 良栄	宇野原信行	大類 洋	荻野 博	
長	哲郎	小田嶋次勝	後藤 順一	佐藤 允美	

鈴木 進 鈴木 信男 南原 利夫 広川吉之助  
 目黒 熙 山崎 慎一 四ツ柳隆夫  
 監 事 小谷 卓 末永 智一  
 庶務幹事 後藤 貴章  
 会計幹事 平野 愛弓  
 在仙常任幹事 赤坂 和昭 芦野 哲也 壹岐 伸彦  
 井上 亮 井原 忠雄 猿渡 英之 渋川 博彦  
 中尾 雅彦 西澤 精一 橋本 幹雄 星 友典  
 三日市 充 山口 央 山下 幸和 和久井喜人  
 地区常任幹事 石濱 泰 岩田 吉弘 遠藤 昌敏  
 押手 茂克 菊池 洋一 佐藤 健二 高貝 慶隆  
 照井 教文 中村 重人 糠塚いそし 平山 和雄  
 藤原 一彦 細野 長悦 水口 仁志 渡辺 忠一  
 幹 事 伊藤 徹二 大江 知行 大関 邦夫  
 小川 信明 彼谷 邦光 北爪 英一 久保 拓也  
 斎藤 紘一 佐藤 洋 珠久 仁 鈴木 敏重  
 玉木 洋一 寺前 紀夫 西澤 松彦 福村 裕史  
 星野 仁 細矢 憲 松永 英之 眞野 成康  
 村本 光二 我妻 和明

## 2. 研究発表会

- 平成 21 年度化学系学協会東北大会 (共催) : 9 月 19 ~ 21 日, 日本大学工学部で開催, 支部からの招待講演 2 件, 依頼講演 6 件のほか, 特別企画として環境科学シンポジウム「自然をはかる」を行った。
- みちのく分析科学シンポジウム 2009 (主催) : 7 月 25 日, 東北大学工学部青葉記念会館にて開催, 依頼講演 2 件, ポスター発表 28 件を行った。
- 秋田化学技術協会第 44 回研究技術発表会ならびに特別講演会 (共催) : 3 月 5 日, 秋田大学 VBL 大セミナー室で開催, 研究技術発表 13 件, 特別講演 2 件を行った。

## 3. 講習会

- 分析化学基礎技術講習会 2009 (共催) : 7 月 30, 31 日, (株)産業技術総合研究所東北センターで開催。

## 4. セミナー

- 分離機能とセンシング機能の化学セミナー 2009 (主催) : 3 月 21 日 (土), 東北大学金属材料研究所にて開催, 依頼講演 3 件を行った。
- 第 26 回無機・分析化学コロキウム (共催) : 5 月 5, 6 日, 川渡共同セミナーセンターにて開催, 招待講演 4 件, 依頼講演 6 件を行った。
- 環境・医工学バイオセンシング研究交流会 (後援) : 6 月 11 日, 東北大学工学部青葉記念会館中研修室にて開催, 12 件の講演があった。
- 平成 21 年東日本分析若手交流会 (主催) : 7 月 3, 4 日, 秋保ホテルクレセントにて開催, 招待講演 4 件, 依頼講演 4 件を行った。
- 東北大学金属材料研究所ワークショップ (協賛) : 12 月 21, 22 日, 東北大学金属材料研究所にて開催, 依頼講演 26 件を行った。

## 【関東支部】

### 1. 役員を選任

支 部 長 渋川 雅美  
 副支部長 菅原 正雄 (次期支部長)  
 角田 欣一 本田 俊哉  
 参 与 赤岩 英夫 今枝 一男 梅澤 喜夫  
 小熊 幸一 大橋弘三郎 楠 文代 合志 陽一  
 酒井 馨 澤田 清 杉谷 嘉則 高田 芳矩  
 高村喜代子 田中 龍彦 中澤 裕之 中埜 邦夫  
 中村 洋 二瓶 好正 平井 昭司 不破敬一郎  
 藤原 鎮男 藤原祺多夫 保母 敏行 矢野 良子  
 山崎 素直 山根 兵 山本 勝巳 綿拔 邦彦  
 監 事 川田 哲 中村 幸二  
 常任幹事 会田 秀樹 伊藤 克敏 岡田 哲男  
 小田中芳次 加藤 尚志 金子 毅 狩野 直樹  
 金 幸夫 谷留須一彦 齋藤 伸吾 佐藤 記一  
 谷 和江 谷 哲行 津越 敬寿 野口 康成  
 野呂 純二 袴田 秀樹 早下 隆士 濱田 尚樹  
 林 英男 藤野 竜也 山本 博之 脇坂 達司  
 和久井隆行

支 部 幹 事 浅見 貴幸 伊藤 里恵 梅香 明子  
 江坂 文孝 佐藤 守俊 敷野 修 清水 克敏  
 高橋 和也 豊田 太郎 永山 敏廣 西垣 敦子  
 橋本 伸哉 馬渡 健一 森 勝伸 柳田 顕郎  
 鎗田 孝

## 2. 研究発表会

第 23 回新潟地区部会研究発表会 : 9 月 18 日, 新潟テルサで開催, 特別講演 2 件, 一般講演 5 件, 情報交換会を行った。

## 3. 講習会

- 第 50 回記念機器分析講習会 (日本分析機器工業会後援) : 第 1 コース, 6 月 25 ~ 26 日, 第 2 コース, 7 月 1 ~ 3 日, 第 3 コース, 7 月 31 日, エスアイアイ・ナノテクノロジー, 東京理科大学, 島津製作所で開催した。
- 第 14・15 回環境分析基礎講座 : 8 月 26 ~ 28 日, 東京理科大学, 2 月 4 ~ 5 日, パーキンエルマージャパンで各々開催した。

## 4. 講演会

- 関東支部懇話会 : 3 月 18 日, ゆうぼうと五反田で開催, 講演 5 件及び交流会を行った。
- 第 6 回茨城地区分析技術交流会 : 12 月 4 日, テクノ交流会館リコッティで開催, 特別講演 4 件及びポスターセッションを行った。

## 5. セミナー

- 平成 21 年度分析化学若手交流会 : 7 月 3 日 ~ 7 月 4 日, 秋保クレセントで開催した。(東北支部共催)
- 第 2 回若手セミナー : 11 月 11 日, 東京大学生産技術研究所にて開催した。
- 新年交流会 : 1 月 8 日, 「ゆうぼうと」において開催。

## 6. 支部ニュースの発行

関東支部ニュース第 20 号を発行した。

## 【中部支部】

### 1. 役員を選任

支 部 長 藤本 忠蔵  
 次期支部長 宇野 文二  
 副支部長 北川 邦行 中田 隆二  
 顧 問 石井 大道 板谷 芳京 河口 廣司  
 木羽 敏泰 小辻 奎也 佐々木与志実 柴田 正三  
 鈴木 正巳 田中 元治 寺田喜久雄 野村 昇  
 三輪 智夫 村田 旭 山寺 秀雄 山本 善一  
 参 与 池田 篤治 上田 一正 上田 稜一  
 太田 清久 酒井 忠雄 田口 茂 柘植 新  
 中村 俊夫 野村 俊明 長谷川 淳 平出 正孝  
 舟橋 重信 本浄 高治 山田 碩道 山田 真吉  
 監 事 竹内 豊英 湯地 昭夫  
 庶務幹事 北川 慎也  
 会計幹事 服部 敏明  
 常任幹事 石田 康行 江坂 幸宏 勝又 英之  
 栗原 誠 呉 行正 手嶋 紀雄 渡慶次 学  
 樋上 照男 平山 直紀 宮部 寛志 森川 久  
 幹 事 飯國 良規 市田 淳一 井村 久則  
 梅村 知也 大野 典子 大橋 芳明 奥山 修司  
 小澤 秀明 香川 信之 片野 肇 形見 武男  
 金子 聡 儀賀 義勝 金 継業 国本 浩喜  
 熊澤 茂則 倉光 英樹 小泉 貞之 小玉 修嗣  
 篠原 直行 妹尾 健吾 高木 秀夫 滝沢 徹己  
 田中 啓之 柘植 明 鳥羽 陽 中園 尚  
 二村 和孝 阪野 二郎 牧野 浩 松島 良明  
 松宮 弘明 元森 涉 柳沢 雅明 山形 茂  
 四津 佳伸 リムリーワ 渡辺 光義

## 2. 研究発表会

- 第 40 回中部化学関係学協会支部連合秋季大会 : 11 月 7・8 日, 岐阜大学工学部ほかで開催, 特別討論会講演 6 件 (招待講演 2 件, 依頼講演 4 件), 一般講演 22 件を行った (参加者 42 名)。
- Asia Young Analytical Chemist Session 2009 (AYACS 2009) : 8 月 10 日, Bilik Johor/Kedah, Putra World Trade Centre で開催, 招待講演 8 件, ポスター発表 31 件を行った (参加者約 60 名)。

3. 講演会

- 1) 北陸地区講演会：6月26日、福井大学文京キャンパスで開催、講演2件を行った(参加者125名)。
- 2) 信州地区講演会：10月16日、信州大学松本キャンパスで開催、講演2件を行った(参加者60名)。
- 3) 愛知地区講演会：11月18日、産業技術総合研究所中部センターで開催、講演2件を行った(参加者35名)。
- 4) 訪日学者講演会：11月20日、福井大学文京キャンパス工学部で開催、講演1件を行った(参加者70名)。
- 5) 訪日学者講演会：11月25日、愛知工業大学総合技術研究所で開催、講演1件を行った(参加者30名)。

4. 講習会

- 1) 第19回基礎及び最新の分析化学講習会：9月10~11日、名古屋大学東山地区で開催、講義8件、実習4件を行った(参加者36名)。

5. セミナー

- 1) 第28回分析化学中部夏期セミナー：8月18~19日、サンレイク美浜で開催、招待講演2件、新製品紹介講演2件、ポスター発表38件を行った(参加者78名)。
- 2) 「分析中部・ゆめ21」若手交流会・第9回高山フォーラム：11月13~14日、高山市図書館、お宿「山久」で開催、依頼講演3件、ポスター発表53件を行った(参加者77名)。

【近畿支部】

1. 役員を選任

支 部 長	澁谷 康彦				
次期支部長	荒川 隆一				
前支部長	尾崎 幸洋				
副支部長	大塚 浩二	大塚 利行			
監 事	市村 彰男	紀本 岳志			
庶務幹事	久本 秀明	前田 耕治			
会計幹事	小畑 俊嗣	中口 讓			
参 与	池田 重良	宇野 豊	大井 尚文		
岡 正太郎	小川禎一郎	木原 壯林	木村 優		
日下 讓	小島 次雄	佐伯 正夫	佐藤 昌憲		
庄野 利之	千田 貢	滝山 一善	田中 信男		
田中 久	田中 稔	千熊 正彦	辻 治雄		
寺部 茂	中川 照眞	中原 武利	浜口 隆信		
原 正	藤永太郎	穂積啓一郎	増田 嘉孝		
松井 正和	渡辺 巖	渡會 仁			
常任幹事	今北 毅	内原 博	岡林 義人		
小池 亮	久保登公二	杉原 崇康	宗林 由樹		
高橋 弘樹	竹田さほり	茶山 健二	塚越 一彦		
中西 和樹	藤原 学	前田 初男	三木功次郎		
向井 浩	森内 隆代	山本 孝			
幹 事	足立 吟也	池川 繁男	石井 裕子		
石田 英之	井上 則子	岩月 聡史	岩本 仁志		
上田 啓太	上原 章寛	宇田 亮子	鶴藤 雅裕		
梅谷 重夫	越後谷みどり	大石 晴樹	大植 正敏		
大内 幹雄	大神 泰孝	岡本 昌彦	岡本 昌彦		
小久見善八	尾関 徹	小堤 和彦	小山 宗孝		
垣内 隆	糟野 潤	加納 健司	金丸 博		
柄谷 肇	河合 潤	川崎 英也	河田 聡		
河野 宏彰	菊地 和也	喜多 純一	北川 文彦		
北出 達也	北山 辰樹	木村 恵一	熊谷 哲		
黒田 義弘	小林 典裕	齊籐 恵逸	才原 康弘		
坂本 英文	佐々木隆之	椎木 弘	下野 辰久		
下山 昌彦	白井 理	白石 晴樹	杉浦眞喜子		
杉山 雅人	杉山 裕子	鈴江 崇彦	鈴木 茂生		
須志田一義	諏訪 雅頼	瀬渡 長武	高川 悌二		
高木 達也	田中 浩三	谷口 一雄	塚原 敬一		
辻 幸一	都築 英明	土江 秀和	角井 伸次		
壺井 基裕	津田 郁子	津村ゆかり	寺田 靖子		
土井 光暢	中 啓人	長岡 勉	中林 安雄		
中村 裕司	中山 茂吉	西 直哉	西岡 洋		
西埜 誠	野崎 敏則	野村 聡	萩中 淳		
張野 宏也	東 昇	姫野 貞之	福士 恵一		
藤居 義和	藤田 芳一	藤嶽 暢英	藤野 治		

藤原 英明	藤森 啓一	堀 智孝	堀 正典
前田 拓巳	町田 佳男	松尾 修司	松下 隆之
松田十四夫	松村 竹子	丸尾 雅啓	水谷 文雄
三田村邦子	三戸彩絵子	村井 重夫	村松 康司
室谷 正彰	森田 尚文	守安 正恭	八尾 俊男
矢坂 裕太	矢嶋 摂子	安川 智之	山内 雄二
山口 敬子	山田 悦	山田 隆	山田 秀和
山本 雅博	横井 邦彦	吉田 裕美	脇田 慎一

2. 講演会

- 1) 近畿分析技術研究懇話会第12回講演会(共催)：3月6日、大阪科学技術センターで開催、講演2件を行った。
- 2) 第1回支部講演会：4月17日、大阪科学技術センターで開催、講演2件を行った。
- 3) 第29回石橋雅義先生記念講演会(共催)：4月28日、京都大学百周年時計台記念館で開催、講演2件を行った。
- 4) 第70回分析化学討論会 高野山プレシジョン分析化学の将来像とイノベーション：5月14,15日、高野山大学等で開催、講演3件、パネルディスカッションを行った。
- 5) 分析化学若手交流シンポジウム@和歌山：5月17,18日、休暇村加太で開催、講演3件を行った。
- 6) 第2回支部講演会：12月4日、大阪科学技術センターで開催、講演2件を行った。
- 7) 第5回近畿分析技術研究奨励賞受賞講演会：1月8日、大阪科学技術センターで開催、講演2件を行った。

3. 講習会

- 1) 第6回基礎分析化学講習会：6月8日、京都工芸繊維大学で開催、講義を行った。
- 2) 第56回機器による分析化学講習会：7月23,24日、京都大学、京都工芸繊維大学で開催、実習7件を行った(受講者50名)。
- 3) 第1回基礎分析化学実習：8月21日、滋賀県立大学で開催、講義、実習を行った。
- 4) 第2回基礎分析化学実習：10月23日、紀本電子工業で開催、講義、実習を行った。
- 5) 第3回基礎分析化学実習：11月20日、堀場製作所で開催、講義、実習を行った。

4. セミナー

- 1) 第1回提案公募型セミナー：10月24日、龍谷大学で開催、講演2件、見学会を行った。
- 2) 第2回提案公募型セミナー：1月9日、甲南大学で開催、講演1件、討論を行った。
- 3) 第3回平成夏期セミナー：8月5~7日、関西セミナーハウスで開催、講演9件、ポスター発表、討論を行った。
- 4) 第3回提案公募型セミナー：2月19日、けいはんなプラザで開催、講演3件、見学会を行った。

5. 支部ニュースを4回発行した。

【中国四国支部】

1. 役員を選任

支 部 長	田頭 昭二				
次期支部長	中野 恵文				
副支部長	藤原 薫	升島 努			
参 与	池田 早苗	今井 嘉彦	岩知道 正		
小倉興太郎	木ト 光夫	木曾 義之	熊丸 尚宏		
澤本 博道	下村 滋	出口 正一	桐柴 恭二		
野崎 亨	林 康久	平田 静子	松尾 博		
宮田 晴夫	本水 昌二	森田 秀芳	山崎 恒博		
監 事	奥村 稔	和田 修治			
庶務幹事	清家 泰	高柳 俊夫	塚原 聡		
村上 良子					
会計幹事	伊藤 一明	竹田 一彦			
常任幹事	石井 孝浩	泉 雅典	今井 昭二		
上田 博文	大島 光子	大中道俊亮	勝 孝		
川端 豊喜	菊地 正	北出 哲朗	島田 健		
善木 道雄	竹味 弘勝	田中 一彦	田中 秀治		
徳永 裕司	中山 雅晴	廣川 健	北條 正司		
前田 繁則	升田 貞和	真鍋 敬	本仲 純子		

森谷 好光 山岡 和則 山根 幸洋 吉屋 晴夫  
若林 茂夫

事務局長 藤原 照文  
幹 事 浅野 比 岩本 悦郎 受田 浩之  
興津 清 尾上 晃一 川口 浩 小松原恒生  
佐竹 弘 田中 俊行 谷村 俊史 田村 雅夫  
千葉 潔 常定 健 鶴田 泰人 永阪 文惣  
長野 博紀 西本 潤 服部喜久男 早川慎二郎  
樋口 徹憲 樋口 浩一 布川 清一 藤原 勇  
前田 道男 山崎 重雄 山下 浩 横田 宣夫

## 2. 研究発表会

- 1) 2009年度日本化学会西日本大会(共催)11月7・8日,愛媛大学城北キャンパス(愛媛市)で開催,特別講演3件,依頼講演27件,一般講演393件(口頭183件,ポスター210件)および懇親会を行った(参加者580名)。
- 2) 第6回ナノ・バイオ・インフォ化学シンポジウム(共催)12月12・13日,広島大学学生会館レセプションホール(東広島市)で開催,口頭発表22件および懇親会を行った(参加者87名)。

## 3. 講演会

- 1) 中国四国支部分析化学講演会:3月6日,広島大学中央図書館ライブラリーホール(東広島市)で開催,講演3件および情報交換会を行った(参加者56名)。
- 2) 周南地区講演会(周南地区コンビナート分析研究会と共催):12月4日,東ソークラブ(周南市)で開催,講演3件および情報交換会を行った(参加者65名)。
- 3) 高知地区講演会(高知地区分析技術懇談会と共催):12月5日,高知大学情報棟1F理学部共通教室4で開催,講演2件および情報交換会を行った(参加者約40名)。
- 4) 宇部地区講演会(宇部地区分析技術研究会と共催):12月11日,山口大学工学部で開催,講演2件および情報交換会を行った(参加者38名)。
- 5) 鳥取地区講演会(鳥取総合分析研究懇談会と共催):1月9日,鳥取大学医学部で開催,講演3件および情報交換会を行った(参加者60名)。
- 6) 徳島地区講演会(徳島地区分析技術研究会と共催):2月5日,徳島大学工学部工業会館2Fメモリアルホールで開催,講演3件および情報交換会を行った(参加者約50名)。
- 7) 島根地区講演会(島根環境分析化学・陸水化学懇話会と共催):2月27日,島根大学総合理工学部大学院棟化学大学院講義室で開催,講演2件および情報交換会を行った(参加者25名)。
- 8) 岡山地区講演会(岡山地区分析技術懇談会と共催):2010年3月8日,岡山大学理学部第11講義室で開催,講演2件,研究紹介5件および情報交換会を行った(参加者約50名)。
- 9) 広島地区講演会(広島地区分析技術研究会と共催):2010年3月16日,広島大学学生会館レセプションホールで開催,一般講演3件,研究発表4件および情報交換会を行った(参加者47名)。
- 10) 外国人学者講演会:11月20日,岡山大学理学部25講義室で開催,Xi Chen教授(中国 廈門(アモイ)大学)の講演1件を行った(参加者25名)。

## 4. 講習会

第46回分析化学講習会:8月6・7日,岡山大学津島キャンパス(岡山市)で開催,「分析の基礎技術習得と信頼性向上:前処理と応用」の主題で,基調講演1件,特別講演1件,講義7件,実習7種類および懇親会を行った(参加者41名)。

## 5. セミナー

第15回中国四国支部分析化学若手セミナー:7月31日・8月1日,島根県立青少年の家 サン・レイク(出雲市)で開催,依頼講演2件,ポスター講演22件および懇親会を行った(参加者45名)。

## 【九州支部】

### 1. 役員の選任

支部長	下田 満哉
次期支部長	山口 敏男
副支部長	井上 高教 横下 正彦
参与	飯盛喜代春 岩崎 正武 大賀 一也
大倉 洋甫	箴島 豊 兼島 清 鎌田 薩男
合屋周次郎	小林 宏 高木 誠 竹田津富次
出口 俊雄	増田 義人
監査	横山 拓史 岩永 達人
庶務幹事	井倉 則之
会計幹事	野間 誠司
常任幹事	梅林 泰宏 大浦 博樹 甲斐 雅亮
片山 佳樹	財津 潔 坂田 育幸 城 昭典
能田 均	馬場 由成 原田 明 肥後 盛秀
松田 直樹	吉永鐵大郎
幹事	安藤 功 石岡 寿雄 石黒 慎一
井原 敏博	今坂藤太郎 今任 稔彦 伊与田憲雄
内田 耕次	内村 智博 内海 英雄 岡上 吉広
大木 章	大久保宗隆 大島 達也 大庭 義史
大森 保	影浦 光義 加藤 祐子 金田 隆
河濟 博文	川原 正博 神崎 亮 喜納 兼勇
木原 壯林	桐山 哲也 栗崎 敏 黒木 広明
黒田 直敬	古賀 実 境 幸夫 笹木 圭子
宗 伸明	高瀬 孝雄 高館 明 高椋 利幸
竹中 繁織	竹原 公 立木 武 田中 一平
谷口 功	田端 正明 土田 博 戸田 敬
轟木 一義	富安 卓滋 中島憲一郎 中嶋 直敏
中島 俊男	永瀬 誠 中園 学 中野 幸二
中山 守雄	新留 康郎 西 敏郎 野口 英行
浜瀬 健司	原口 浩一 原田 雅章 平尾 良光
平田 紀行	廣中 博見 堀口 大吉 前田 明広
増田 寿伸	松井 利郎 松岡 信明 松野 康二
松本 清	満尾 良弘 宮島 徹 村田 正治
森山 慶一	屋形 直明 安田みどり 柳 雅之
山口 英敬	山口 政俊 山田 淳 吉塚 和治
吉田 烈	吉田 秀幸 吉留 俊史 吉村 和久
米山 敏夫	脇田 久伸 和田 光弘

### 2. 研究発表会

- 1) 第46回化学関連支部合同九州大会(共催):7月11日,北九州国際会議場で開催。分析化学関連は依頼講演1件,ポスター講演55件,懇親会を実施。優秀ポスター発表6件を「九州分析化学ポスター賞」として表彰。
- 2) 第16回クロマトグラフィーシンポジウム(共催):5月28~30日,長崎大学文教キャンパスで開催。

### 3. 講演会

- 1) 第22回九州分析化学若手の会・春の講演会(主催):5月23日,九州大学馬出キャンパスで開催。講演4件,情報交換会を実施(参加者111名)。
- 2) 外国人講演会(主催):6月15日,九州大学伊都キャンパスで開催。講演1件を実施(参加者14名)。
- 3) 九州支部講演会・見学会(主催):11月14日,講演会を九州大学箱崎キャンパスで開催。特別講演1件,九州分析化学会賞受賞講演1件,見学会(キューサイ分析研究所)を実施(参加者29名)。

### 4. 講習会

- 1) 第50回分析化学講習会(主催):8月5~7日,第一薬科大学で開催。講義3件,講習5件,情報交換会を実施(受講者65名)。
- 2) 機器分析ワークショップ(主催):11月17~19日,九州大学箱崎地区で開催。講演・出展3社受講者48名)。

### 5. セミナー

- 1) 第27回九州分析化学若手の会・夏季セミナー(主催):7月30~31日,宮崎観光ホテルで開催。招待講演2件,特別講演1件,九州分析化学奨励賞受賞講演1件,模範ポスター発表5件,一般ポスター発表81件,情報交換会を実施。優秀ポスター発表8件を「九州分

析化学若手賞」として表彰（参加者 160 名）。

6. 支部ニュース  
支部ニュース第 20 号（6 月）及び第 21 号（2 月）を発行。

## 平成 22 年度事業計画書

（平成 22 年 3 月 1 日～平成 23 年 2 月 28 日）

### ① 通常総会の開催（定款第 31 条）

- 第 51 回通常総会を下記のとおり行う。  
日時 平成 22 年 4 月 16 日（金）11 時より  
場所 五反田文化会館（東京都品川区西五反田 1-32-2）  
参加予定者数 150 人。

### ② 会誌、研究報告及び資料の刊行（定款第 5 条(1)）

- 学会誌「ぶんせき」を下記のとおり発行する。  
2010 年第 3 号～2011 年第 2 号 毎月 1 回、5 日に発行（各号 A4 判、130 ページ）。発行部数 7800
- 和文論文誌「分析化学」を下記のとおり発行する。  
第 59 巻第 3 号～第 60 巻第 2 号を毎月 1 回、5 日に発行（各号 A4 判、72 ページ）。発行部数 2500
- 英文論文誌「Analytical Sciences」を下記のとおり発行する。  
Vol. 26, No. 3～Vol. 27, No. 2 を毎月 1 回、10 日に発行（各号 A4 判、136 ページ）。発行部数 900
- 英文論文誌「X-ray Structure Analysis Online」を下記のとおり発行する。  
Vol. 26, No. 3～Vol. 27, No. 2 を毎月 1 回発行（web のみによる無料公開）。
- メールマガジンを発行する。
- 「改訂六版 分析化学便覧」の編集を行う。
- 同上 DVD 版の刊行のための編集を行う。
- 「試料分析シリーズ」全 15 巻の刊行のための編集を行う。
- 60 周年記念誌の編集を行う。

### ③ 講演会、講習会及び研究会の開催（定款第 5 条(2)）

- [研究発表会]
- ICAS2011 の開催のための準備を行う。
  - 第 71 回分析化学討論会を下記のとおり行う。  
日時 平成 22 年 5 月 15 日（土）～16 日（日）  
場所 島根大学（松江西市川津町）参加予定者 750 人  
演題数 400  
討論主題：①水環境と分析化学、②新たなる分析化学の展開に向かって、③信頼性向上に役立つ分析化学
  - 東京コンファレンス 2010 を下記のとおり行う。  
日時 平成 22 年 9 月 1 日（水）～3 日（金）  
場所 幕張メッセ（千葉市美浜区中瀬 2-1）参加予定者数 未定 演題数 未定
  - 第 59 年会を下記のとおり行う。  
日時 平成 22 年 9 月 15 日（水）～17 日（金）  
場所 東北大学（仙台市青葉区）参加予定者数 1300 人  
演題数 800
  - Separation Sciences 2010 を行う。  
日時、場所、参加予定者数、演題数 未定
- [講習会] 参加予定者数：合計 500 名

予定テーマ

- 水中の微量金属成分分析技術セミナー
- 金属分析技術セミナー
- ダイオキシン類分析技術セミナー
- セラミックス原料・鉱石類分析技術セミナー
- 土壌分析技術セミナー
- プラスチック中有害金属成分の化学分析技術セミナー
- 分析化学基礎セミナー
- 食品分析技術セミナー
- 分析化学における不確かさ研修プログラムセミナー
- その他

### ④ 調査、研究及び建議（定款第 5 条(3)）

- [JIS]  
JIS 規格原案作成並びに改正の作業を行う。

[技能試験] 参加予定試験所数：合計 800 社  
ISO/IEC ガイド 43-1（JIS Q 0043-1）に基づく分析試験所技能試験を行う。

予定テーマ

- ダイオキシン類成分分析
- プラスチック中有害金属成分の分析
- 食品成分の分析
- トレーサビリティと不確かさの理解度を確保する分析
- 土壌中の重金属分析
- その他

[標準物質]

これまで開発してきた各種標準物質の社会への供給活動を継続して実施する。また、新規標準物質の開発を行い社会への供給活動を行う。

[関連団体との協力]

- 化学オリンピックの開催に協力する。
  - 2011 年世界化学年に協力するための準備
  - 関連学協会並びに団体の講演会、講習会及び研究会の開催を共催又は協賛する。
  - 学術会議協力団体としての活動を行う。
  - グリーンサステナブルケミストリーネットワークの活動に協力する。
  - Division of Analytical Chemistry of the European Association for Chemical and Molecular Sciences (EuChemMS) にオブザーバーを派遣して活動を行う。
  - 化学連合参加団体としての活動を行う。
  - 関連団体からの要請に基づき委員を派遣して JIS/ISO などの各種規格の立案等に協力する。
- [教育用 DVD]
- 現在頒布中の教育用ビデオを発展させた DVD 教材の開発のために作業を行う。

### ⑤ 研究の奨励及び研究業績の表彰（定款第 5 条(4)）

- 2010 年度学会賞、学会功労賞、技術功績賞、奨励賞、有功賞、「分析化学」論文賞並びに先端分析技術賞を下記のとおり表彰する。  
学会賞（3 名以内）  
学会功労賞（5 名以内）  
技術功績賞（3 名以内）  
奨励賞（5 名以内）  
有功賞（50 名程度）  
2009 年「分析化学」論文賞（1 名）  
先端分析技術賞（3 名以内）
- 他機関による表彰および研究助成に対して会員を候補者として推薦する。
- 若手研究者育成支援制度の設置を行う。

### ⑥ その他目的を達成するために必要な事業（定款第 5 条(5)）

- アジアの分析化学者との連携をはかるために Asian Analytical Chemistry Network のホームページを運用する。
- 本会の活動並びに斯学術・技術の重要性をホームページ、各種展示、冊子の発行、記者会見などを通じて広報する。
- 若手交流会の活動を次のとおり行う。  
分析化学討論会（5 月、松江）また年会（9 月、仙台）、東京コンファレンス（9 月、幕張）において若手企画シンポジウム・若手ポスターセッションを開催する。担当する各支部若手の会を支援する。
- 各研究懇談会の活動を次のとおり行う。
  - 有機微量分析研究懇談会  
委員会を 2 回、第 77 回有機微量分析研究懇談会シンポジウム（計測自動制御会・力学量計測部会と共催、日本分析化学会近畿支部、日本化学会、日本薬学会近畿支部協賛、5 月、京都大学百周年時計台記念館）、講演会（第 59 年会会期中）を開催するほか、会報 11 号（2010 年 3 月）を発行する。また本研究懇談会編の「役に立つ有機微量元素分析」その 2 の出版計画を進める。
  - ガスクロマトグラフィー研究懇談会  
例会を数回、見学会、特別講演会、講習会（実習含む）

を開催する。例会の中で基礎講座を行う。地方での研究会活動を行う。Separation Sciences 2010を担当する。東京コンファレンスで講習会を実施する。日中韓シンポジウムを支援する。「役に立つガスクロ分析」を出版する。懇談会50年のアーカイブを作成する。運営委員会を隔月で開催する。

- 3) 高分子分析研究懇談会  
例会を6回、高分子分析技術講習会、第15回高分子分析討論会(国際会議)の開催。
- 4) X線分析研究懇談会  
例会を数回、第46回X線分析討論会、X線分析講習会を開催するほか、「X線分析の進歩」を出版する。
- 5) 分析試薬研究懇談会  
講演会2回(第59年会およびホスト・ゲスト化学シンポジウムでの招待講演)ほか懇談会1回を開催する。第6回ホスト・ゲスト化学シンポジウム(大阪, 6月)及び2010環太平洋国際化学会議(米国ハワイ)でのシンポジウム(#39)の共催を行う。
- 6) 溶液界面研究懇談会  
講演会、懇談会を各1回(第59年年会会期中)開催するほか、通信による情報交換を行う。また、年会において界面に関するセッションを継続して開催できるよう、年会実行委員会への働きかけを行う。
- 7) 液体クロマトグラフィー研究懇談会  
例会を数回、LCテクノプラザ、LC-DAYs 2010を開催する。
- 8) 化学センサー研究懇談会  
Pacifichem2010でのセンサー研究会合同ワークショップ、懇談会(9月分化年会会期中)を各1回開催するほか、例会の案内、化学センサー関連資料を配布する。
- 9) 電気泳動分析研究懇談会  
懇談会講演会を1回(9月年会時、仙台)開催するほか、第30回キャピラリー電気泳動シンポジウム(11月、岐阜)を開催する予定。
- 10) イオンクロマトグラフィー研究懇談会  
第4回日中韓合同イオンクロマトグラフィー討論会(12月9-10日、岐阜)、イオンクロマトグラフィー講習会(9月、東京コンファレンスと共催)、Separation Sciences 2010(SS2010)(8月31日・9月1日、幕張)、イオンクロマトグラフィー講演会(9月、分析化学会第59年会と共催、東北大学)、中日韓分析化学シンポジウム(11月1-3日、GC, HPLC, FIA各研究懇談会と共催、中国・武漢)を開催する。この他、運営委員会を3回開催する予定。また「分析化学教育用ビデオ」の内容改訂(DVD化)を進める。
- 11) フローインジェクション分析研究懇談会  
委員会を1回、「Journal of Flow Injection Analysis」(JFIA)誌編集委員会を2回、講演会(4月・16th International Conference on Flow Injection Analysis (Pattaya, Thailand), 12月・Pacifichem 2010 (Hawaii, USA), 9月・第59年年会会期中(東北大)、時期未定・Separation Sciences 2010(開催地未定))を開催するほか、JFIA誌を2回(6月、12月)発行する。
- 12) 環境分析研究懇談会  
講演会を3回(第56年年会会期中、6月、11月)、サイバーワークショップを1回、幹事会を1回開催する。CJKシンポジウムに参加する。また適宜メーリングリストを用いた情報交換を行う。
- 13) 表示・起源分析技術研究懇談会  
講演会を3回(7月、第59年年会会期中、10月か11月)、運営委員会を2回開催する。「食品表示に関する分析技術(仮)」の単行本の発刊を10月に行う。

・支部活動を次のとおり行う。

#### 【北海道支部】

1. 夏季研究発表会(7月/函館)、冬季研究発表会(2月/札幌)
2. 化学教育研究協議会(11月上旬/札幌)
3. 第26回分析化学緑陰セミナー(7月/未定)、公開セミナー(9月/北見)、第45回冰雪セミナー(1月上旬/未定)

4. 支部ニュースの発行(7月、12月)

#### 【東北支部】

1. 研究発表会:平成22年度化学系学協会東北大会、第45回秋田化学技術協会研究発表会
2. 講演会:地区講演会など
3. 分析化学基礎技術講習会2010
4. セミナー:分離機能とセンシング機能の化学セミナー2010、第7回環境と分析化学「みちのく」セミナー、平成22年東日本分析化学若手交流会、第13回機能構造と分析化学シンポジウム、第26回無機・分析化学コロキウム

#### 【関東支部】

1. 講習会:第51回機器分析講習会、環境分析基礎講座を開催する。
2. 講演会:新潟地区部会研究発表会、茨城地区分析技術交流会、関東支部懇談会、新年交流会のほか、随時開催する。
3. セミナー:分析化学若手交流会のほか、随時開催する。
4. 支部ニュースの発行ほか常任幹事会で必要と認められた事項を行う。

#### 【中部支部】

1. 研究発表会:第41回中部化学関係学協会支部連合秋季大会(11月、豊橋科学技術大学)を共催の予定。
2. 講演会:愛知・岐阜・富山で開催を予定。
3. 講習会:第20回基礎及び最新の分析化学講習会(10月、名古屋)を開催の予定。
4. セミナー:第29回分析化学中部夏期セミナー(8月、福井)、「分析中部・ゆめ21」若手交流会・第10回高山フォーラム(11月、高山市図書館)を開催の予定。

#### 【近畿支部】

1. 講演会:近畿分析技術研究懇談会第13回講演会(3月)、支部講演会(4月、12月)を開催の予定。
2. 講習会:基礎分析化学講習会(随時)、第57回機器による分析化学講習会(7月、京都大学、京都工芸繊維大学)を開催の予定。
3. セミナー:提案公募型事業(随時)、基礎分析化学実習(随時)、第4回平成夏期セミナー「ぶんせき秘帖」(8月)を開催の予定。
4. 支部ニュースの発行(随時)

#### 【中国四国支部】

1. 研究発表会:第17回クロマトグラフィー討論会(6月、広島)、第46回X線分析討論会(10月、広島)を開催の予定。
2. 講演会:中国四国支部分析化学講演会(3月、岡山)、岡山・広島・周南・山口・愛媛・徳島・鳥取・島根・高知地区講演会、外国人学者講演会を随時開催の予定。
3. 講習会:第47回分析化学講習会(8月、広島)を開催の予定。
4. セミナー:第16回中国四国支部分析化学若手セミナー(7月、広島)を開催の予定。

#### 【九州支部】

1. 研究発表会:第47回化学関連支部合同九州大会(7月)を開催の予定。
2. 講演会:第23回春の研究講演会(5月)、第28回夏期セミナー(7月)、支部講演会・見学会(11月)のほか、機器分析ワークショップや外国人講演会を随時開催の予定。
3. 講習会:第51回分析化学講習会(8月)を開催の予定。
4. その他:地区懇談会、支部ニュースの発行などを行う予定。

以上



平成 21 年 度 会 計 報 告

貸 借 対 照 表

(平成 22 年 2 月 28 日現在)

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資 産 の 部			
1. 流 動 資 産			
現 金 及 び 預 金	53,034,956	52,722,520	312,436
未 収 金	12,612,442	9,903,274	2,709,168
未 収 会 費	17,984,000	19,391,000	△1,407,000
未 収 収 益	271,561	271,561	0
棚 卸 資 産	26,893,180	28,188,745	△1,295,565
一年以内回収長期貸付金	199,920	210,620	△10,700
前 払 金	4,764,419	5,369,699	△605,280
仮 払 金	365,320	100,000	265,320
流 動 資 産 合 計	116,125,798	116,157,419	△31,621
2. 固 定 資 産			
(1) 基 本 財 産			
定 期 預 金	10,000,000	10,000,000	0
基 本 財 産 合 計	10,000,000	10,000,000	0
(2) 特 定 資 産			
退 職 給 付 引 当 資 産	75,176,729	98,112,360	△22,935,631
標 準 物 質 開 発 基 金	67,034,512	77,162,990	△10,128,478
分 析 技 術 教 育 基 金	13,695,934	13,646,424	49,510
国 際 交 流 事 業 基 金	28,839,494	32,188,196	△3,348,702
学 会 施 設 拡 充 基 金	0	33,624,558	△33,624,558
分 析 化 学 研 究 奨 励 基 金	8,355,287	8,338,349	16,938
預 り 保 証 金 引 当 預 金	11,000,000	11,000,000	0
支 部 研 究 懇 談 会 特 定 預 金	30,934,312	28,812,099	2,122,213
特 定 資 産 合 計	235,036,268	302,884,976	△67,848,708
(3) そ の 他 の 固 定 資 産			
建 物	18,633,998	19,494,689	△860,691
器 具 備 品	679,472	1,025,766	△346,294
土 地	49,172,915	49,172,915	0
商 標 権	547,486	622,326	△74,840
ソ フ ト ウ ェ ア	9,285,283	12,507,462	△3,222,179
電 話 加 入 権	28,000	28,000	0
敷 金	100,000	100,000	0
長 期 貸 付 金	3,527,160	3,727,080	△199,920
そ の 他 の 固 定 資 産 合 計	81,974,314	86,678,238	△4,703,924
固 定 資 産 合 計	327,010,582	399,563,214	△72,552,632
資 産 合 計	443,136,380	515,720,633	△72,584,253

## 貸 借 対 照 表

(平成 22 年 2 月 28 日現在)

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
Ⅱ 負 債 の 部			
1. 流 動 負 債			
未 払 金	5,754,828	15,902,258	△10,147,430
未 払 費 用	4,973,660	6,531,547	△1,557,887
前 受 金	6,650,000	7,518,300	△868,300
前 受 会 費	16,263,715	17,181,491	△917,776
預 り 金	2,186,617	2,217,825	△31,208
仮 受 金	185,165	189,165	△4,000
流 動 負 債 合 計	36,013,985	49,540,586	△13,526,601
2. 固 定 負 債			
退 職 給 付 引 当 金	90,214,177	110,263,992	△20,049,815
預 り 保 証 金	11,000,000	11,000,000	0
固 定 負 債 合 計	101,214,177	121,263,992	△20,049,815
負 債 合 計	137,228,162	170,804,578	△33,576,416
Ⅲ 正 味 財 産 の 部			
一 般 正 味 財 産	305,908,218	344,916,055	△39,007,837
(うち基本財産への充当額)	( 10,000,000)	( 10,000,000)	0
(うち特定資産への充当額)	(148,859,539)	(193,772,616)	△44,913,077
負 債 及 び 正 味 財 産 合 計	443,136,380	515,720,633	△72,584,253

## 正味財産増減計算書

(平成21年3月1日～平成22年2月28日)

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
一般正味財産増減の部			
I 経常増減の部			
1. 経常収益			
(1) 基本財産運用益	53,900	50,245	3,655
(2) 特定資産運用益	1,570,970	1,179,754	391,216
(3) 受取入金会金	230,000	161,000	69,000
(4) 受取会費	103,432,778	108,352,478	△4,919,700
(5) 受取購読料	12,043,375	13,877,218	△1,833,843
(6) 事業収益	168,839,220	190,147,177	△21,307,957
(7) 受取補助金等	14,897,700	11,916,000	2,981,700
(8) 雑収益	912,505	2,695,227	△1,782,722
経常収益計	301,980,448	328,379,099	△26,398,651
2. 経常費用			
事業費	(282,578,107)	(304,042,500)	(△21,464,393)
(1) 一般事業費	119,685,480	124,722,063	△5,036,583
(2) 出版事業費	75,160,030	83,495,534	△8,335,504
(3) 受託等事業費	1,687,380	1,743,135	△55,755
(4) 会議費	16,492,894	20,106,116	△3,613,222
(5) 支払補助金	0	0	0
(6) ICAS2011準備費	2,817,648	1,310,836	1,506,812
(7) 人件費	66,734,675	72,664,816	△5,930,141
管理費	(58,410,178)	(66,195,339)	(△6,414,656)
(1) 人件費	31,015,753	37,025,478	△6,009,725
(2) 通信運搬費	2,340,037	2,563,100	△223,063
(3) 印刷費	2,490,789	1,701,195	789,594
(4) 減価償却費	1,206,985	1,450,394	△243,409
(5) 商標権償却	74,840	74,840	0
(6) 備品・消耗品費	4,259,996	5,069,721	△809,725
(7) 旅費交通費	1,116,050	1,584,205	△468,155
(8) 共益補修費	1,676,400	1,702,650	△26,250
(9) 水道光熱費	379,242	425,210	△45,968
(10) 事務所整備費	63,000	0	63,000
(11) 会計監査費	1,890,000	2,730,000	△840,000
(12) HP維持作製費	1,691,816	1,306,378	385,438
(13) 職員表彰費	0	116,800	△116,800
(14) 会員管理費	1,177,502	1,828,649	△651,147
(15) 支払負担金	3,000,502	2,768,736	231,766
(16) 事務委託費	2,910,217	2,891,281	18,936
(17) 租税公課	2,307,300	2,044,000	263,300
(18) 雑費用	809,749	912,702	△102,953
経常費用計	340,988,285	370,237,839	△29,249,554
当期経常増減額	△39,007,837	△41,858,740	2,850,903
II 経常外増減の部			
1. 経常外収益	0	1,982,515	△1,982,515
当期経常外増減額	0	1,982,515	△1,982,515
当期一般正味財産増減額	△39,007,837	△39,876,225	868,388
一般正味財産期首残高	344,916,055	384,792,280	△39,876,225
一般正味財産期末残高	305,908,218	344,916,055	△39,007,837
正味財産期末残高	305,908,218	344,916,055	△39,007,837

## 財務諸表に対する注記

### 1. 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法  
償却原価法を採用している。
- (2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法  
商品の評価は先入先出法による原価法を採用している。
- (3) 固定資産の減価償却方法  
有形固定資産  
建物…定額法を採用している。(ただし、平成10年3月以前に取得した建物については定率法を採用している。)  
器具備品…定率法を採用している。
- (4) 引当金の計上基準  
退職給付引当金…職員の退職給与の支給に備えるため、退職金支給規程に基づき期末自己都合要支給額に相当する金額を計上している。
- (5) 消費税等の会計処理  
消費税等の会計処理は税込み方式によっている。

### 2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減等の内訳は次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基 本 財 産				
定 期 預 金	10,000,000	0	0	10,000,000
小 計	10,000,000	0	0	10,000,000
特 定 資 産				
退職給付引当資産	98,112,360	869,142	23,804,773	75,176,729
標準物質開発基金	77,162,990	30,166,208	40,294,686	67,034,512
分析技術教育基金	13,646,424	49,510	0	13,695,934
国際交流事業基金	32,188,196	30,151,298	33,500,000	28,839,494
学会施設拡充基金	33,624,558	99,875	33,724,433	0
分析化学研究奨励基金	8,338,349	16,938	0	8,355,287
預り保証金引当預金	11,000,000	0	0	11,000,000
支部研究懇談会特定預金	28,812,099	3,677,839	1,555,626	30,934,312
小 計	302,884,976	65,030,810	132,879,518	235,036,268
合 計	312,884,976	65,030,810	132,879,518	245,036,268

## 財務諸表に対する注記

### 3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財 産からの充当額)	(うち一般正味財 産からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
定期預金	10,000,000	—	(10,000,000)	—
小 計	10,000,000	—	(10,000,000)	—
特定資産				
退職給付引当資産	75,176,729	—	(—)	(75,176,729)
標準物質開発基金	67,034,512	—	(67,034,512)	—
分析技術教育基金	13,695,934	—	(13,695,934)	—
国際交流事業基金	28,839,494	—	(28,839,494)	—
分析化学研究奨励基金	8,355,287	—	(8,355,287)	—
預り保証金引当預金	11,000,000	—	(—)	(11,000,000)
支部懇談会特定預金	30,934,312	—	(30,934,312)	—
小 計	235,036,268	—	(148,859,539)	(86,176,729)
合 計	245,036,268	—	(158,859,539)	(86,176,729)

### 4. 担保に供している資産

該当なし

### 5. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は次のとおりである。

(単位：円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建 物	62,107,932	43,473,934	18,633,998
器 具 備 品	6,625,813	5,946,341	679,472
合 計	68,733,745	49,420,275	19,313,470

### 6. 保証債務等の偶発債務

該当なし

### 7. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び時価との差額

満期保有目的の債券の内訳ならびに帳簿価額、時価及び時価との差額は次のとおりである。

(単位：円)

科 目	帳簿価額	時 価	時価との差額
第44回利付国庫債券(5年)	59,981,312	60,180,000	198,688
第64回利付国庫債券(5年)	30,711,558	30,918,000	206,442
合 計	90,692,870	91,098,000	405,130

### 8. 補助金の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳ならびに交付者、当期の増減額及び残高は次のとおりである。

(単位：円)

補助金等の名称	交 付 者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の 記載区分
補 助 金						
国庫補助金	日本学術振興会	0	8,500,000	8,500,000	0	一般正味財産
民間補助金	日本分析機器工業会	0	3,500,000	3,500,000	0	一般正味財産
民間補助金	化学物質評価研究機構	0	450,000	450,000	0	一般正味財産
民間補助金	フロンティアラボ(株)	0	200,000	200,000	0	一般正味財産
合 計		0	12,650,000	12,650,000	0	

## 財務諸表に対する注記

### 9. 税効果会計関係の注記

#### (1) 繰延税金資産の発生的主要原因別の内訳

(単位：円)

未払賞与	76,090
退職給付引当金	712,345
繰越欠損金	42,329,704
繰延税金資産小計	43,118,139
評価性引当額	△43,118,139
繰延税金資産合計	0

#### (2) 法人税法上の非収益事業と収益事業の区分

(単位：円)

	非収益事業	収益事業	合計
税引前当期利益一般正味財産増減額 (A)	△30,838,062	△8,099,775	△38,937,837
寄付金損金算入限度額 (B)	0	0	0
小計 (C)=(A)+(B)	△30,838,062	△8,099,775	△38,937,837
法人税、住民税及び事業税 (D)	0	70,000	70,000
法人税等調整額 (E)	0	0	0
過年度法人税等調整額 (F)	0	0	0
当期一般正味財産増減額 (A)-(D)-(E)-(F)	△30,838,062	△8,169,775	△39,007,837

- (3) 法人税法上の収益事業に係る法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目の内訳  
法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率の差異については、税引前当期一般正味財産増減額がマイナスであるため記載しない。

#### 10. 関連当事者との取引の内容

該当なし

#### 11. 重要な後発事象

該当なし

**財 産 目 録**

(平成 22 年 2 月 28 日現在)

(単位：円)

科 目	金 額
<b>I 資 産 の 部</b>	
<b>1. 流 動 資 産</b>	
現金預金	
現金手許有高	742,148
普通預金	
三井住友銀行五反田支店	3,297,618
三井住友銀行新宿通支店	704,052
みずほ銀行五反田支店	5,285,455
三菱東京 UFJ 銀行五反田支店	4,688,749
北洋銀行大通支店	3,103,731
七十七銀行大学病院前支店	2,526,353
みずほ銀行名古屋支店	1,695,400
りそな銀行御堂筋支店	4,050,899
広島銀行西条支店	538,541
福岡銀行箱崎支店	1,664,227
りそな銀行五反田支店	10,100,933
三井住友銀行麹町支店	1,149,044
もみじ銀行西条支店	1,176,035
大垣共立銀行中川支店	712,801
三井住友銀行京都支店	2,289,640
三井住友銀行麹町支店	308,074
武蔵野銀行みずほ台支店	595,925
三菱東京 UFJ 銀行網島支店	515,574
群馬銀行桐生支店	279,667
徳島銀行助任支店	130,386
ゆうちょ銀行東京貯金事務センター	2,642,851
ゆうちょ銀行名古屋貯金事務センター	484,500
ゆうちょ銀行大阪貯金事務センター	1,500
広島大学内郵便局	368,814
三芳みよし台郵便局	1,110,529
広島銀行西条支店	1,300,000
りそな銀行五反田支店	1,571,510
未収金	
ビデオ・DVD、標準物質未収 3 件	7,298,917
㈱明報社 広告料未収 1 月 2 月分	3,970,304
別刷代金未収分	1,343,221
未収会費	17,984,000
未収収益	271,561
棚卸資産	26,893,180
標準物質、ビデオ、会誌、切手、図書カード	
一年以内回収予定長期貸付金 職員住宅購入資金	199,920
前払金	
第 59 年会費用	2,000,120
第 71 回分析化学討論会費用	890,692
2010 年開催講習会費用	1,873,607
仮払金	
会誌送料概算払い	100,000
労働保険料	265,320
流動資産合計	116,125,798
<b>2. 固 定 資 産</b>	
(1) 基 本 財 産	
定期預金 中央三井信託銀行本店営業部	10,000,000
基本財産合計	10,000,000
(2) 特 定 資 産	
退職給付引当資産	
第 44 回 5 年国債 大和証券五反田支店	59,981,312
普通預金 みずほ銀行五反田支店	195,220
定期預金 みずほ銀行五反田支店	15,000,197
標準物質開発基金	
第 64 回 5 年国債 大和証券五反田支店	30,711,558
MMF 大和証券五反田支店	8,941,765
普通預金 三井住友銀行五反田支店	7,381,189
定期預金 三井住友銀行五反田支店	20,000,000
分析技術教育基金	
普通預金 三井住友銀行五反田支店	3,695,934
定期預金 三井住友銀行五反田支店	10,000,000
国際交流事業基金	
普通預金 三井住友銀行五反田支店	3,689,494
定期預金 中央三井信託銀行	25,150,000

**財 産 目 録**

(平成 22 年 2 月 28 日現在)

(単位：円)

科 目		金 額	
研究奨励基金特定資産			
定期預金 中央三井信託銀行本店営業部	433,668		
貸付信託 中央三井信託銀行本店営業部	7,820,000		
金銭信託 中央三井信託銀行本店営業部	101,619		
預り保証金特定資産 定期預金中央三井信託銀行本店営業部	11,000,000		
支部・研究懇談会特定預金			
普通預金 北洋銀行大通支店	182,357		
普通預金 七十七銀行大学病院前支店	5,018,687		
普通預金 みずほ銀行名古屋支店	3,340,916		
普通預金 りそな銀行御堂筋支店	1,000,362		
普通預金 福岡銀行箱崎支店	900,000		
普通預金 三井住友銀行麹町支店	4,998,201		
普通預金 もみじ銀行西条支店	2,031,659		
普通預金 三菱東京 UFJ 銀行藤ヶ丘支店	1,350,023		
定期預金 みずほ銀行五反田支店	3,007,500		
定期預金 広島銀行西条支店	450,366		
定期預金 りそな銀行五反田支店	6,851,351		
定期預金 武蔵野銀行みずほ台支店	1,802,890		
特 定 資 産 合 計	235,036,268		
(3) その他の固定資産			
建物 事務所 282.8 平米	18,633,998		
器具備品 コンパックラック	28,230		
303 号室エアコン	34,500		
間仕切りアコーデオン	6,690		
リコーリコピーボード	10,926		
304 号室マルチエアコン	26,252		
液晶プロジェクター ep elp730	42,025		
308 号室エアコン	40,950		
エプソン emp-745	33,171		
304 号室エアコン	232,415		
305 号室エアコン	224,313		
土地 38.78 平米	49,172,915		
商標権 会誌	547,486		
ソフトウェア 投稿受付システム, DVD マスター	9,285,283		
電話加入権 7 回線	28,000		
敷金 近畿支部事務局	100,000		
長期貸付金 職員, 住宅購入資金	3,527,160		
その他の固定資産合計	81,974,314		
固 定 資 産 合 計		327,010,582	
資 産 合 計			443,136,380
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金 著作権印税未払額	349,887		
法定福利費未払額	1,103,812		
2009 年度消費税	1,222,100		
監査法人に対する監査料	1,890,000		
編集費及び交通費に対する未払額	1,036,577		
郵便料金の未払い額	152,452		
未払費用 賞与引当繰入額	4,973,660		
前受金 講習会次年度受講料受領額	6,650,000		
前受会費 会費未経過分	14,641,033		
前受購読料 会誌購読料未経過分	1,622,682		
預り金 2 月分職員給与源泉法定福利費, 所得税	1,585,617		
第 71 回分析化学討論会	601,000		
仮受金	185,165		
流動負債合計		36,013,985	
2. 固定負債			
退職給付引当金	90,214,177		
預り保証金 広告料受入保証金	10,000,000		
営業保証金	1,000,000		
固 定 負 債 合 計		101,214,177	
負 債 合 計			137,228,162
正 味 財 産			305,908,218



# 収 支 計 算 書

(平成21年3月1日～平成22年2月28日)

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
1. 基本財産運用収入	33,000	53,900	20,900	
2. 特定資産運用収入	930,000	1,570,970	640,970	特定預金利息
3. 入会金収入	100,000	230,000	130,000	
4. 会費収入	106,568,000	103,432,778	△3,135,222	
5. 購読料収入	15,000,000	12,043,375	△2,956,625	Anal. Sci. 分析化学
6. 事業収入	205,035,000	168,839,220	△36,195,780	年会, 討論会, 社会貢献事業
7. 補助金等収入	12,450,000	14,897,700	2,447,700	科研費, 受託事業収入
8. 雑収入	546,000	912,505	366,505	
9. 長期貸付金回収額	200,000	199,920	△80	
事業活動収入計	340,862,000	302,180,368	△38,681,632	
2. 事業活動支出				
1. 事業費支出	(308,162,000)	(286,085,040)	(△22,076,960)	
(1) 一般事業費支出	123,168,000	114,285,994	△8,882,006	年会, 討論会, 社会貢献事業ほか
(2) 出版事業費支出	84,610,000	74,868,492	△9,741,508	
(3) 受託事業費支出	1,500,000	1,687,380	187,380	
(4) 会議費支出	19,484,000	16,492,894	△2,991,106	
(5) 助成金支出	200,000	0	△200,000	
(6) ICAS2011準備費	1,500,000	2,817,648	1,317,648	
(7) 人件費	77,700,000	75,932,632	△1,767,368	
2. 管理費支出	(75,126,000)	(67,909,241)	(△7,216,759)	
(1) 人件費	45,000,000	41,867,611	△3,132,389	
(2) 通信運搬費	2,867,000	2,292,347	△574,653	
(3) 印刷費	2,020,000	2,490,789	470,789	
(4) 備品・消耗品費	5,794,000	4,236,716	△1,557,284	
(5) 旅費交通費	2,120,000	1,116,050	△1,003,950	
(6) 共益補修費	1,800,000	1,676,400	△123,600	
(7) 水道光熱費	450,000	379,242	△70,758	
(8) 事務所整備費	200,000	63,000	△137,000	
(9) 会計監査費	2,300,000	1,890,000	△410,000	
(10) 職員研修費	50,000	0	△50,000	
(11) 会員管理費	1,100,000	1,177,502	77,502	
(12) HP維持作製費	880,000	1,691,816	811,816	
(13) 負担金支出	3,144,000	3,000,502	△143,498	
(14) 事務委託費	2,699,000	2,910,217	211,217	
(15) 租税公費	3,500,000	2,307,300	△1,192,700	消費税ほか
(16) 雑費	1,202,000	809,749	△392,251	
事業活動支出計	383,288,000	353,994,281	△29,293,719	
事業活動収支差額	△42,426,000	△51,813,913	△9,387,913	
II 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
1. 特定資産取崩収入	40,050,000	132,886,705	92,836,705	
投資活動収入計	40,050,000	132,886,705	92,836,705	
2. 投資活動支出				
1. 特定資産取得支出	500,000	65,037,997	64,537,997	
2. 固定資産取得支出	0	1,244,250	1,244,250	無形固定資産
投資活動支出計	500,000	66,282,247	65,782,247	
投資活動収支差額	39,550,000	66,604,458	27,054,458	
III 予備費支出	370,000	0	△370,000	
当期収支差額	△3,246,000	14,790,545	18,036,545	
前期繰越収支差額	38,428,000	38,428,088	88	
次期繰越収支差額	35,182,000	53,218,633	18,036,633	

## 収支計算書に対する注記

### 1. 資金の範囲

資金の範囲には、現金預金、未収金、未収会費、売掛金、未収収益、一年以内回収予定長期貸付金、前払金、仮払金、未払金、未払費用、前受金、前受会費、前受購読料、預り金及び仮受金を含めている。

### 2. 次期繰越収支差額に含まれる資産及び負債の内訳

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期末残高
現金預金	52,722,520	53,034,956
未収金等	25,873,427	23,297,525
売掛金	3,420,847	7,298,917
未収収益	271,561	271,561
一年以内回収長期貸付金	210,620	199,920
前払金	5,369,699	4,764,419
仮払金	100,000	365,320
合 計	87,968,674	89,232,618
未払金等	22,433,805	10,728,488
前受金等	24,699,791	22,913,715
預り金	2,217,825	2,186,617
仮受金	189,165	185,165
合 計	49,540,586	36,013,985
次期繰越収支差額	38,428,088	53,218,633

### 3. 科目間の流用及び予備費の使用について

#### (1) 科目間の流用

該当なし

#### (2) 予備費の使用

該当なし

## 平成 22 年 度 収 支 予 算 書

(平成 22 年 3 月 1 日～平成 23 年 2 月 28 日)

(単位：円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減	備 考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
1. 基本財産運用収入	50,000	33,000	17,000	
2. 特定資産運用収入	965,000	930,000	35,000	特定預金利息
3. 会 費 収 入	101,810,000	106,568,000	△4,758,000	
4. 購 読 料 収 入	12,650,000	15,000,000	△2,350,000	
5. 入 会 金 収 入	200,000	100,000	100,000	
6. 事 業 収 入	170,593,000	205,035,000	△34,442,000	年会, 討論会, 社会貢献事業ほか
7. 補 助 金 等 収 入	11,584,000	12,450,000	△866,000	科研費, 受託収入ほか
8. 雑 収 入	460,000	546,000	△86,000	
9. 長期貸付金回収額	210,000	200,000	△10,000	
事業活動収入計	298,522,000	340,862,000	△42,340,000	
2. 事業活動支出				
1. 事業費支出	252,804,000	294,368,000	△41,564,000	
(1) 一般事業費支出	111,577,000	123,168,000	△11,591,000	
(2) 出版事業費支出	73,313,000	84,610,000	△11,297,000	学会誌の出版費
(3) 受託事業費支出	1,500,000	1,500,000	0	
(4) 会議費支出	4,350,000	5,690,000	△1,340,000	
(5) 助成金支出	200,000	200,000	0	
(6) ICAS関連委員会費	2,980,000	1,500,000	1,480,000	
(7) 人 件 費	58,884,000	77,700,000	△18,816,000	
2. 管理費支出	62,522,000	88,920,000	△26,398,000	
(1) 人 件 費	21,960,000	45,000,000	△23,040,000	
(2) 会 議 費	12,631,000	13,794,000	△1,163,000	総会, 理事会費等
(3) 通 信 運 搬 費	2,461,000	2,867,000	△406,000	
(4) 印 刷 費	2,296,000	2,020,000	276,000	
(5) 備品・消耗品費	4,965,000	5,794,000	△829,000	事務消耗品, リース料
(6) 旅 費 交 通 費	1,887,000	2,120,000	△233,000	
(7) 共 益 補 修 費	1,700,000	1,800,000	△100,000	
(8) 水 道 光 熱 費	430,000	450,000	△20,000	
(9) 事 務 所 整 備 費	100,000	200,000	△100,000	
(10) 会 計 監 査 費	2,415,000	2,300,000	115,000	
(11) 職 員 研 修 費	30,000	50,000	△20,000	
(12) 会 員 管 理 費	1,200,000	1,100,000	100,000	
(13) HP 製作管理費	920,000	880,000	40,000	
(14) 負 担 金 支 出	2,972,000	3,144,000	△172,000	諸手数料
(15) 事 務 委 託 費	2,748,000	2,699,000	49,000	
(16) 租 税 公 課	2,000,000	3,500,000	△1,500,000	消費税
(17) 公益法人移行準備費	500,000	0	500,000	
(18) 雑 費	1,307,000	1,202,000	△105,000	
事業活動支出計	315,326,000	383,288,000	△67,962,000	
事業活動収支差額	△16,804,000	△42,426,000	25,622,000	
II 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
1. 特定資産取崩収入	10,425,000	40,050,000	△29,625,000	
投資活動収入計	10,425,000	40,050,000	△29,625,000	
2. 投資活動支出				
1. 特定資産取得支出	300,000	500,000	△200,000	
2. 固定資産取得支出	1,000,000	0	1,000,000	
投資活動支出計	1,300,000	500,000	800,000	
投資活動収支差額	9,125,000	39,550,000	△30,425,000	
III 予備費支出	181,000	370,000	△189,000	
当期収支差額	△7,860,000	△3,246,000	△4,614,000	
前期繰越収支差額	53,219,000	38,428,000	14,791,000	
次期繰越収支差額	45,359,000	35,182,000	10,177,000	

## 第 51 回通常総会

### 開催日と場所

4月16日(金)11時より、東京都品川区西五反田1丁目32番2号、五反田文化会館第一会議室において開催した。

### 出席者

定款第31条の構成員総数142名中、出席者は中村会長ほか120名あり、定款第36条の定足数に達し、本総会は成立した。

### 議長

定款第33条により、中村会長が議長を務め、議事録署名人(高田芳矩、原口紘丞)を指名して、次の審議を行った。

### 議事の経過と結果

#### 第1号議案 2009年度事業報告及び決算報告承認の件

加藤副会長より原案(本号会報参照)について説明があり、続いて池田監事より会計監査について証言があった。

#### 第2号議案 2010年度役員選任の件

加藤副会長より、役員等候補者選考委員会において役員21名(5号会報参照)が選考された旨報告があった。

#### 第3号議案 2010年度事業計画及び収支予算承認の件

加藤副会長より原案(本号会報参照)について説明があった。

#### 第4号議案 名誉会員推薦の件

中村会長より定款第8条に基づき大類 洋氏を名誉会員に推薦したい旨説明があった。

#### 第5号議案 永年会員推薦の件

中村会長より定款第9条に基づき、小林セツ、磯崎昭徳、井垣浩侑、松田十四夫、宮沢武矩、菅原国香、田中一好、長谷部 清、中川照真、藤川 衛、合原 真、秋葉健一、中川文雄、樋口精一郎、前田昌子、岩附正明の16氏を永年会員に推薦したい旨説明があった。

以上の議案について一括審議を行った結果、それぞれ満場一致で可決し、第51回通常総会を閉会した。

## 求人・求職

### 求人

#### H201009 群馬大学大学院工学研究科教員公募

募集人員：准教授または講師1名。所属：大学院工学研究科応用化学・生物化学専攻。専門分野：分析化学(角田欣一教授と共同で大学院・学部教育および研究に積極的に取り組んでいただける方)。応募締切：2010年7月30日(金)。着任時期：できるだけ早い時期。提出書類などの詳細は<http://www.chem-bio.gunma-u.ac.jp/koubo.html>を参照。問合せ先：〒376-8515 桐生市天神町1-5-1 群馬大学大学院工学研究科応用化学・生物化学専攻 若松 馨(電話・FAX：0277-30-1439, E-mail：wakamats@chem-bio.gunma-u.ac.jp)。

#### H201010 金沢大学理工研究域物質化学系教員(准教授)公募

募集人員：1名。所属：物質化学系(理学部化学科併任)。専門分野：分析化学。担当授業：学類および大学院の専門分野の講義・実験・研究指導と共通教育科目の講義・実験など。応募資格：1)博士の学位を有する方、2)分析化学およびその関連分野の新しい領域を開拓できる方、3)現在の当該分野担当者とも教育・研究に協力でき、さらに独自の研究を展開できる方。着任時期：決定後できるだけ早い時期。締切：2010年7月5日(月)必着。連絡先：〒920-1192 金沢市角間町 金沢大学理工研究域物質化学系化学コース長 水野元博(電話：076-264-5686, E-mail：mizuno@se.kanazawa-u.ac.jp)。詳細は<http://chem.s.kanazawa-u.ac.jp/>をご覧ください。

#### H201011 YKK株式会社分析技術者募集

YKKグループの技術の中核を担う工機技術本部で、材料分析を通して技術開発を支援する分析・解析センターのスタッフを募集します。FT-IR, GC-MS, LC-MS, NMR等による材料分析の経験を有し、有機材料にかかわる高度な分析技術と専門知識を活かして、原材料から製品の製造プロセスに至る技術的課題の解決に貢献できる方。募集人員：1名。資格：有機化学系の大学卒以上で5年以上の実務経験がある方。勤務地：富山県黒部市。応募方法：下記URLの「YKKグループキャリア採用」のページからご応募ください。

<http://www.ykk.co.jp/recruitment/pro/index.html>

#### H201012 大阪大学大学院理学研究科化学専攻教員公募

募集人員：教授1名。所属：大学院理学研究科化学専攻・無機化学講座。研究分野：分析化学。応募資格：博士の学位。提出書類(A4判)：履歴書(写真貼付)、研究業績リスト、主要論文別刷10編以内、研究業績の概要(2000字程度)、研究計画と教育に対する抱負(2000字程度)、推薦書(自薦：照会できる方2名の氏名、所属・連絡先)。公募締切：2010年7月15日(消印有効)。書類送付先：〒560-0043 豊中市待兼山町1-1 大阪大学大学院理学研究科化学専攻 宗像利明(電話：06-6850-6082, E-mail：munakata@chem.sci.osaka-u.ac.jp)。封筒に「無機化学講座教授応募書類」と朱記し書留で送付のこと。

#### H201013 神奈川県警察科学捜査研究所研究員募集

生物科学職、化学職、物理職の各業務における研究員を募集します。業務内容は各種事件にかかわる鑑定及び研究。募集人数：生物科学職2名程度、化学職、物理職1名程度。受付期間：2010年7月1日～8月2日。第1次選考日：2010年9月19日。詳細は<http://www.police.pref.kanagawa.jp>又は問合せ先まで。問合せ先：神奈川県警察本部警務課採用係(フリーダイヤル：0120-03-4145)。